

●原子力人材育成ネットワーク報告会&国際会議

平成28年2月10日(水)イイノホール(東京都千代田区)にて、平成27年度「原子力人材育成ネットワーク」報告会(兼国際会議)を開催しました。海外からはトルコ、マレーシア、韓国、IAEA、WNUから参加があり、日本の産官学の各界からと併せて87名の参加がありました。岡原子力委員長をはじめとして各セッションとも情報共有はもとより、人材育成活動をよりよいものとするための工夫や今後の課題、取組みの方針について紹介があり、有意義な報告会となりました。

韓国の発表者からは日本と韓国の連携強化が提案された他、ネットワーク事務局の活動と5つの分科会(高等教育、国内人材国際化、初等中等教育支援、実務段階、海外人材育成)における特徴のある活動の共有、関係府省の原子力人材育成活動/政策の紹介、IAEA福島レポートについての発表や海外の人材育成の状況と日本に求められる人材育成活動等の発表がありました。当日の発表資料は、<http://jn-hrd-n.jaea.go.jp/backno03.php#e>に掲載しています。

●学生対象施設見学会

今年度第二回施設見学会を実施しました。今回関西地区では参加希望者が多く、定員を急遽39名に増員しましたがそれでも9名の方が定員を超え参加をお断りしました。関東地区は参加者20名でした。両地区とも遠方からの学生も多数参加しました。

*実施日

- ・関東 2016年3月4日(金) 稲毛駅9時集合川崎駅18時解散
- ・関東 2014年3月15日(火) 京都駅8時集合21時解散

*見学先

- ・関東 午前 放射線医学総合研究所
見学装置 新型重粒子治療装置、HIMAC加速器、MRI
午後 東芝 京浜事業所
見学装置 原子炉機器、タービン、核融合コイル、福島第一廃炉用燃料棒取出装置
- ・関西 午前 若狭湾エネルギー研究センター
見学装置 加速器、照射室(医療用、元素分析、生物用等)
午後 原子力機構 高速増殖原型炉 もんじゅ
見学装置 Na切断、燃焼体験、格納容器内から原子炉を見学、中央制御室

当日は盛り沢山な見学内容について参加者からは活発な質問がありどこも予定時間をかなりオーバーしてしまいました。見学後の参加者は驚きと感動の表情をしており、自分が気付かない分野に興味を持つきっかけになった、原子力には色々な分野の学問が必要ということがよく分かった、日帰りでこれ以上の内容は無理、原子力に関連した何かに就きたい、

格納容器内に入って原子炉を直接見て感動したただただ圧倒された、等の当方の想いと一致する感想が聞かれました。一方説明して頂いた方々からは今回の参加者は意識や知識が高く鋭い質問もあって頼もしく感じたとのコメントを頂きました。これらから本企画もかなり成熟してきたと考えており、若い人たちにやる気を起こさせるこのような見学会画は是非今後も継続した開催が望まれます。

●合同企業説明会『原子力産業セミナー2017』を開催しました。

日本原子力産業協会と関西原子力懇談会は、2017年3月卒業の高専生・大学生・大学院生を主な対象に、3月13日に東京（新宿エルタワー）で、20日に大阪（新梅田研修センター）で合同企業説明会「原子力産業セミナー2017」を開催しました。

採用活動ブースの出展数は、55ブース（東京：31社、大阪：24社）で、出展企業・機関の数は36社・機関でした。展示ブース数は平成22年度に次ぐ数で、関係企業の原子力人材への採用ニーズ・意欲の強さを示していると考えられます。

各ブースでは、工夫を凝らした展示を行い、各企業の技術や職場環境とともに、原子力産業で働くことの意義を紹介しました。

当日来場した学生は、合わせて337名（東京：188名、大阪：149名）で昨年よりやや減少しました。これは東京都の有効求人倍率が約1.89倍（2015年12月）に上昇するなど労働市場が売り手市場になっていること、学生のインターンシップなど就活手段が多様化していることも原因と考えられます。

本セミナーは原子力に特化した就活セミナーであることから、来場学生は原子力工学系が41%、次いで電気・電子16%、文系8%、化学8%、機械7%、その他理系20%となっています。企業ニーズを踏まえ、今後、原子力以外の理系学生の参加を増やす対策を取っていく必要があります。

本セミナーは、日頃原子力にあまり接することのない原子力工学以外の学生も、各企業から業務内容を詳しく聞く機会となっており、学生へ原子力業界の魅力をアピールする場ともなっています。